

I 建築物（一戸建ての住宅）の景観誘導基準

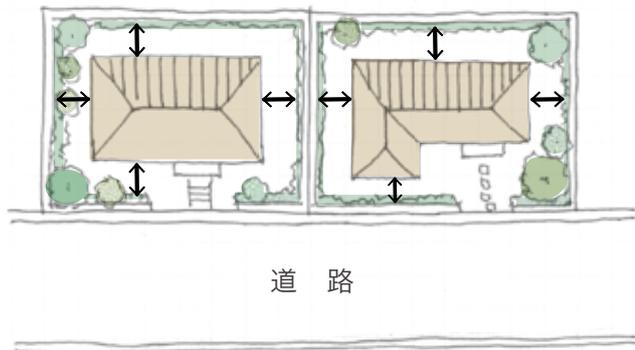
A 配置・規模

□①適切な隣棟間隔や道路側への空地の確保など、ゆとりある景観に配慮した配置とする。

- ・建築物の配置は、敷地内だけで考えるのではなく、周辺との関係に配慮することが大切です。
- ・特に公園、緑地や農地と隣り合っている敷地の場合は、隣地からの見え方にも配慮して、外壁が隣地側に近接しないようにしましょう。



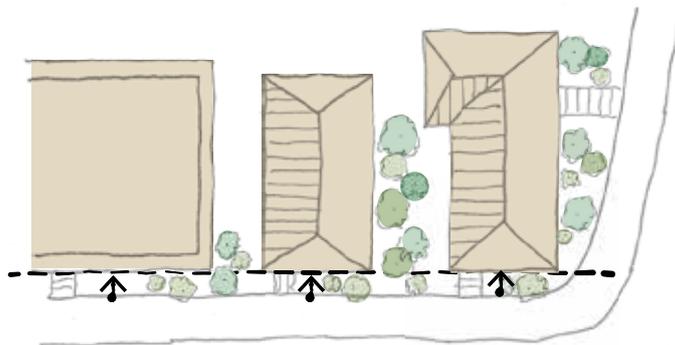
道路側から壁面を十分に後退させた例



適切な隣棟間隔や道路側への空地を確保しましょう。

□②周辺建築物の壁面の位置の連続性を考慮するなど、街並みに配慮した配置とする。

- ・壁面の位置が、周辺建築物と調和したものとなるようにしましょう。



壁面の位置が揃っている場合は、そこから壁面が突出しないようにしましょう。

B 形態・意匠・色彩

□①建築物の形態・意匠・色彩は周辺の建築物等と調和したものとなるようにする。

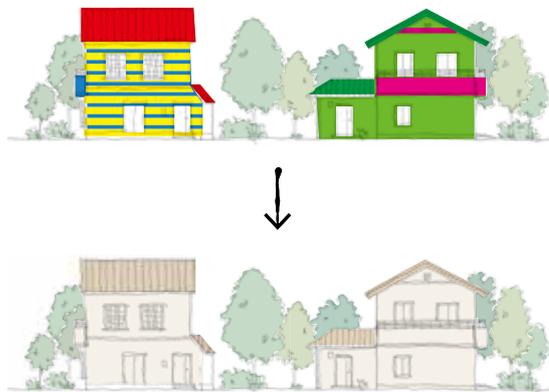
- ・通りから見て側面や裏面となる部分も、正面と一体性を持たせるなどによりデザインに配慮しましょう。
また、周辺に公園や公共建築物などの公共空間がある場合は、そちらからの見え方にも配慮しましょう。
- ・特に近くに社寺や公園、農地などの景観資源がある場合には、景観資源との調和に配慮した形態・意匠・色彩にしましょう。
- ・雑多なモチーフや複雑な曲面で外観を構成したり、周辺の街並みから大きく逸脱するようなデザインは避けましょう。



周囲と調和した材料や色彩、形態としましょう。



素材や色彩、形態が調和した街並みの例



外壁は暖色系の低彩度色（※右図参照）を基本とし、派手な色や暗すぎる色、明度の高すぎる色の使用は避けましょう。

また、金属やガラスは反射率の低い材料を選択しましょう。

〈「暖色系の低彩度色」とは〉

暖色は、茶色や橙色などの温かみを感じる色です。彩度は色の鮮やかさのことです。



暖色系の低彩度色



暖色
（暖かみを感じる色）

寒色
（冷たさを感じる色）



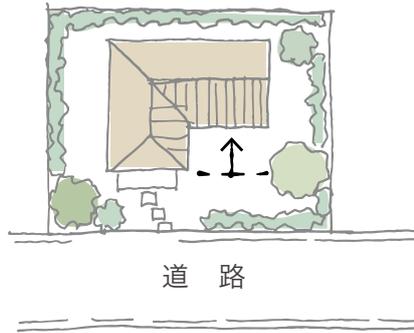
低い(地味) ← 彩度 → 高い(派手)



低い(暗い) ← 明度 → 高い(明るい)

□②建築物が周囲に圧迫感を与えないよう、部分的なセットバックや、形態や色彩の分節化などの工夫をする。

- ・開口部のない単調な壁面や、敷地境界線に近接して建てられた建築物は、閉鎖的な印象や、周囲への圧迫感を与えます。部分的なセットバック、形態や色彩、素材の分節化、窓の配置や意匠上の工夫などによって、圧迫感を軽減するようにしましょう。



道路から壁面を部分的にセットバックするなどにより、圧迫感を軽減するようにしましょう。

C 植栽

□①接道部やエントランス周りを中心に積極的に緑化し、周囲から見て豊かな緑が感じられるような植栽の配置とする。

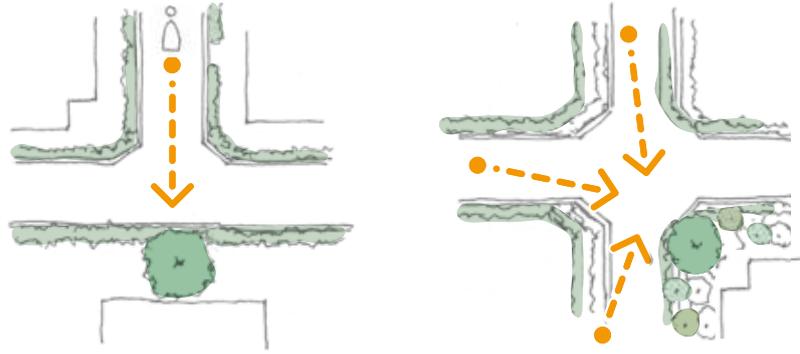
- ・地植えが難しい場合は、プランターやフラワーポットを置く場所を設けましょう。



接道部を緑化することで、緑が連続した景観をつくりだしている例



塀の外側に植栽スペースを確保して接道部を緑化した例



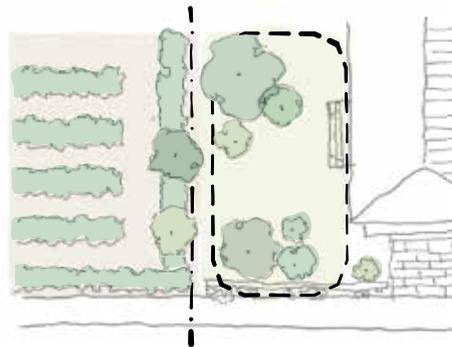
丁字路のアイストップとなる部分や街角となる部分、エントランス周りなど、人の視線が集まりやすい位置にまとまった緑やシンボルツリーを配置するようにしましょう。



角地の部分を中心に緑化した例

□②周辺の緑との連続性に配慮した植栽の配置とする。

- ・周辺に緑が少なくても、緑を積極的に配置して先導的に緑のある景観を形成しましょう。



農地と住宅との間に植栽を配置した例

敷地の周辺に公園・緑地、社寺、農地などのまとまった緑がある場合は、連続した緑を形成するように植栽を配置しましょう。

□③豊かで奥行きのある緑が感じられるよう、高木・中木・低木を組み合わせたり、さまざまな種類を用いた植栽計画とする。

- ・道行く人も楽しむことができるよう、量感のある常緑樹と季節感豊かな落葉樹を組み合わせるなど、さまざまな種類を組み合わせたり、季節感が感じられるよう花や実などにより街並みを彩りましょう。
- ・地形や日照条件、近隣への影響なども考慮して、継続的な維持管理が可能な植栽計画としましょう。



さまざまな種類を組み合わせた
季節感が感じられる植栽の例



内側にある生垣が見えるよう
塀を低くした例

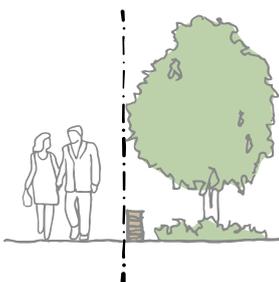
□④敷地内に残る樹木はできる限り残し、それを活かした植栽計画とする。

- ・樹木が大木になるには50年、100年もの年月を要します。そして成長した樹木は家や地域の風景を構成する重要な要素となり、地域の歴史を語り継ぐ役割も担います。
- ・既存樹木の位置が建築物の配置計画に影響する場合は、移植も検討しましょう。やむを得ず移植する場合でも、緑の一体感や通りからの見え方などに配慮した配置としましょう。

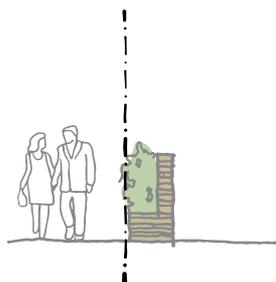
D 外構

□①高さのある閉鎖的な塀はなるべく設けずに、生垣や植栽、低い塀や透視性のある塀などを用いる。

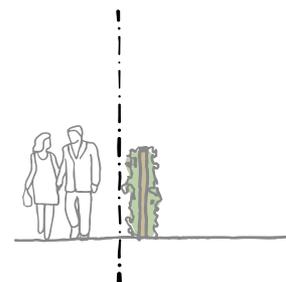
- ・高く閉じた塀は周辺に圧迫感を与えるため、生垣や植栽を使いましょう。もし塀を設ける場合は、安全性や防犯性にも配慮しながら、歩行者の目線を著しく超えない高さとし、透視性のあるつくりなどにして、植栽とうまく組み合わせましょう。



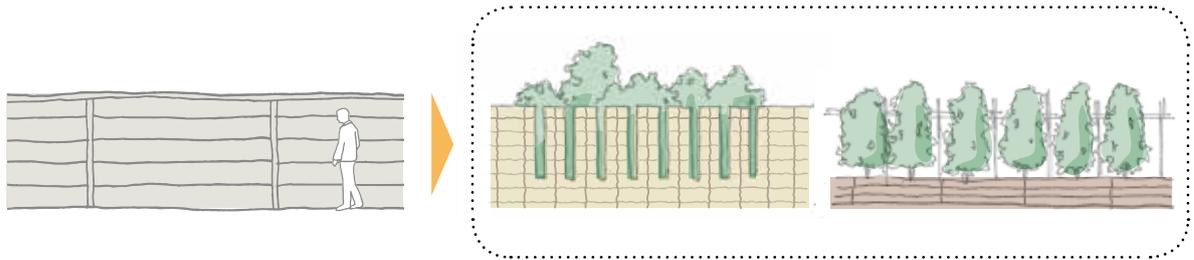
塀は低くし、奥には
中高木を植栽する



塀の外側に植栽
を設ける



フェンスをツタなど
で緑化する



敷地内に既存の古いブロック塀や万年塀がある場合は、安全性にも配慮し、できるだけ作り替えましょう。



塀を低くし、後退させた部分に植栽を設けた例



透視性のある低い柵と植栽を組み合わせた例

□②道路に面する部分の外構は、魅力ある沿道景観の形成を図るため、舗装や門扉等のデザインを工夫する。

- ・歩行者の目線に近い部分では、石材等の自然素材や木の素材感を意識した建材等を用いたり、意匠を工夫しましょう。舗装にはタイルやインターロッキングブロック、自然石、地被類などを使い、無表情なしつらえとならないようにしましょう。



門扉等の外構デザインが周辺の建築物と調和している例



玄関までのアプローチ部分のしつらえを工夫した例



竹垣と植栽によって落ち着いた雰囲気をつくりだしている例



塀の一部に自然石を使った例

E 附属設備・駐車スペース等

□①エアコンの室外機や雨樋などの設備・配管は、周囲から見えにくい位置に配置するか、目隠しを設ける等により目立たないように配慮する。

- ・エアコンの室外機やガス給湯器、ガスメーターなどの設備類は、周囲から見えにくい位置に配置しましょう。やむを得ず外から見える位置に設置する場合は、ルーバーや植栽等で目隠したり、目立たない色彩とするなどの工夫をしましょう。
- ・雨樋などの配管の色彩は建築物の色彩と調和するものにしましょう。



エアコンの室外機を植栽で目隠した例



エアコンの室外機を木製のボックスで目隠した例



給湯器の配線やガスメーターを植栽で目隠した例



ガスメーターをボックスに入れて目立たないように配慮している例

□②駐車スペースは植栽や舗装の工夫により、緑豊かな住宅地との調和を図る。

- ・駐車スペースが屋外にある場合は、植栽や、素材感のある舗装などを使って、住宅地に調和するよう配慮しましょう。
- ・駐車スペースは、建物内に組み込むと周囲から見て目立ちにくくなります。



舗装を工夫した駐車スペースの例



壁面を緑化した駐車スペースの例



周囲を緑化した駐車スペースの例



緑化ブロック等を用いて舗装面を緑化した駐車スペースの例



駐車スペースの扉を外壁と調和した木目調とし、景観に配慮した例

□③駐輪スペースやバイク置き場は周囲から見て目立たないようにする。

- ・駐輪スペースやバイク置き場は建物内に設けるか、通りから奥まった配置にしましょう。また、植栽やルーバー等で目隠しし、できるだけ周囲から見て目立たないようにしましょう。



自転車が外から見えないう
駐輪スペースに扉をつけた例



壁面後退部分に設けた駐輪スペースの例

□④ごみ置きスペースは、ごみが目立たないように配置やつくり等を工夫する。

- ・ごみ置き場には、ごみ袋をそのまま置くのではなく、ごみ箱を使用する等の工夫をしましょう。
- ・門扉の内側にごみを置いても、施錠をしなければ収集が可能です。



ごみ箱を使用したごみ置きスペースの例

F 照明・夜間景観

□①屋外照明は、周辺の住宅地に配慮した落ち着きや安心感のある夜間景観を形成するため、暖かみを感じる色温度の低いものとする。

- ・色温度の低い（暖かみを感じる電球色などの）間接照明やフットライト、低めの庭園灯、開口部から漏れる灯りなどにより、落ち着きのある夜間景観を演出しましょう。
- ・防犯に配慮するとともに、夜道を歩く人が不安を感じないように、門灯や庭園灯などにより明るさを確保しましょう。



色温度の低い暖かみのある照明が連続する住宅地の例



間接照明で植栽や塀、門扉を照らした住宅の例

□②屋外照明は、まぶしさや点滅などによる不快感を与えないものとする。

- ・光量や光源の向きなどに配慮し、主に直接光源が見えない間接照明を用いて植栽や壁などを照らしましょう。